

# 「大学生の英語学習意識について」 に関する調査

株式会社ベネッセi-キャリア  
まなぶとはたらくをつなぐ研究所

株式会社ベネッセ i-キャリア

大学1－4年生を対象に、大学での英語学習についての意識調査を行った。

本調査実施の背景として、多くの大学がグローバル教育の推進や英語教育の充実を図る中で、実際に教育を受けている学生が大学の英語教育をどのように受け止めているのか把握することを目的とする。

▼主な調査項目

- ・学生が伸ばしたい技能と在学中の成長度
- ・必修授業の満足度と学びたいカリキュラム内容
- ・学生の自身の英語力の把握度
- ・学生が受けたいテストの内容

## 調査概要：

- |         |   |
|---------|---|
| 1. 調査目的 | 大学生の英語学習への意向・見解を定量的に把握                                    |
| 2. 調査対象 | 大学1-4年生 800人（ランダム）  |
| 3. 調査期間 | 2023年10月6日-10月13日   |
| 4. 調査方法 | インターネットを利用したアンケート調査                                       |
| 5. 回答数  | 771名（有効回答のみ）<br>内訳) 1年生:155 / 2年生:199 / 3年生:179 / 4年生:238 |

## 学生が伸ばしたい技能と在学中の成長度

- ・大学生の半数以上が「スピーキング」力を最も伸ばしたい（56.5%）と回答。
- ・一方でスピーキング力が入学当初から伸びたと思っていない（56.2%）と回答。その他技能も同様の結果に。

## 必修授業の満足度と学びたいカリキュラム内容

- ・必修授業において「英語講師」への満足度が最も高い。（28.6%）  
→学年別では1年生で特に「クラス分け」「英語講師」で満足と不満足の一極化が起きている。
- ・必修授業では「検定試験対策の授業」を履修したい（43.2%）と回答し、次点で「ビジネス英語・異文化理解関連の授業」（40.1%）と回答。  
→学年別で最も高い項目は、3年生が「検定試験対策」（48.6%）を選択。他学年では「ビジネス・異文化理解」を選択する回答が多い結果に。

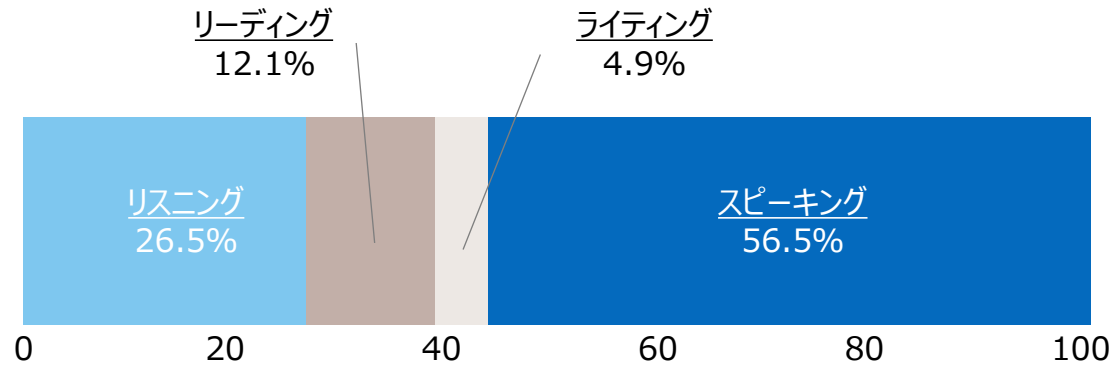
## 学生の自身の英語力の把握度

- ・スピーキングにおいて約半数の学生が「自分の英語力を把握したい」（48.8%）と回答するが、4人に1人が「把握できている」（25.8%）と回答。その他技能も同様の結果に。  
→主に「ライティング」（45.1%）「スピーキング」（43.8%）のアウトプット技能において、「把握できていない」と回答

## 学生が受けたいテストの内容

- ・テストへの意識は「結果レポートの充実」（57.6%）を求める意見が最も多い

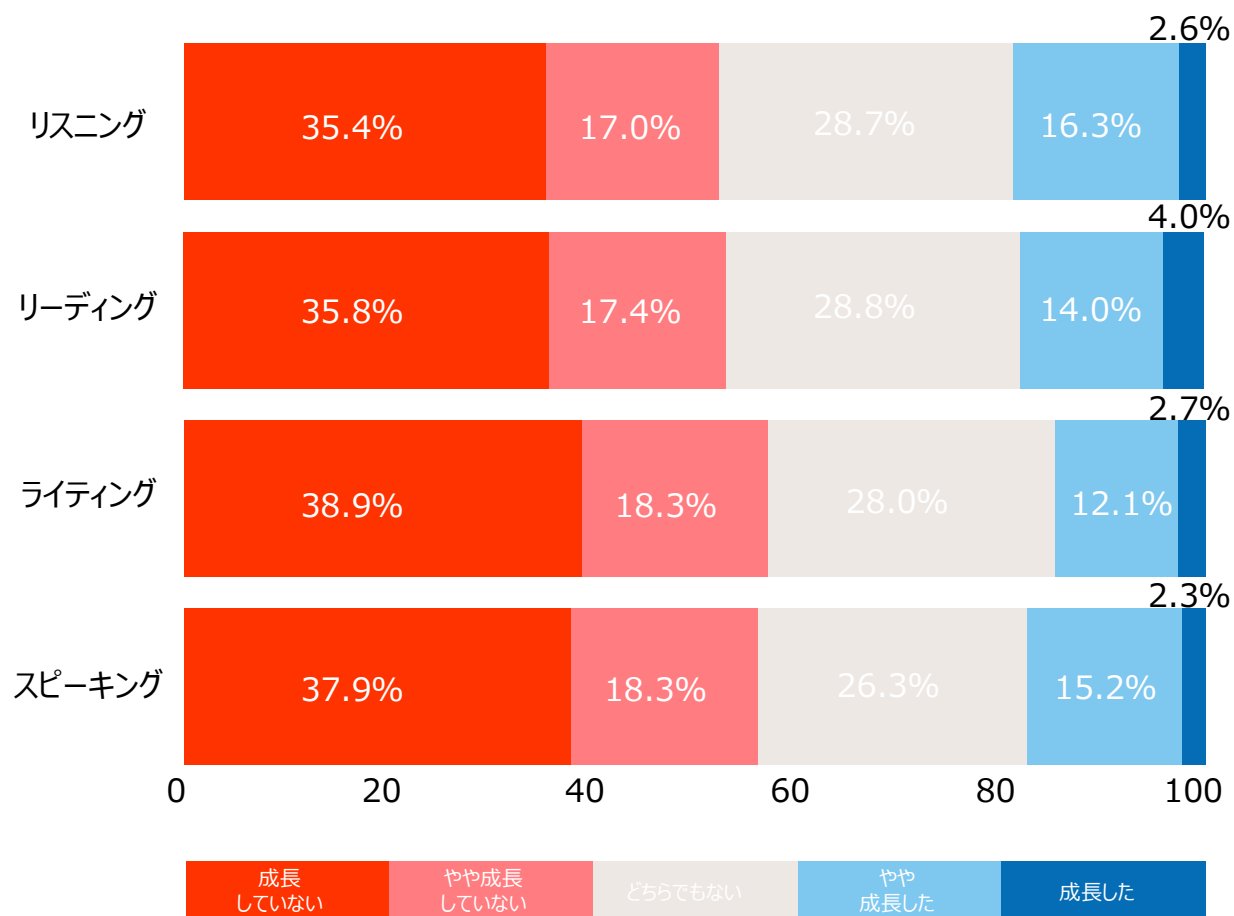
## ▼最も伸ばしたい技能は何ですか。



➡ **最も伸ばしたい技能は、スピーキングとリスニング**  
会話などのコミュニケーションニーズが高いことが想定される。

## 学生が伸ばしたい技能と在学中の成長度②

▼大学入学当初の英語力と現在の英語力の成長度を技能ごとに選択してください。



➡ **成長実感は4技能すべて高いとは言えない傾向**  
 その中でもライティング・スピーキングの成長実感が感じられていない。

# 必修授業の満足度と学びたいカリキュラム内容①

大学の英語必修授業で満足（不満）に感じているまたは感じたことを選択してください。【項目別】

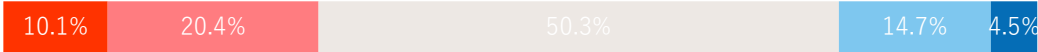
## ▼クラス分け（クラスのレベルが高(低)い)



## ▼授業内容①（インプット系(リスニング/リーディング)の授業について)



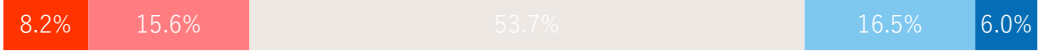
## ▼授業内容②（アウトプット系(ライティング/スピーキング)の授業について)



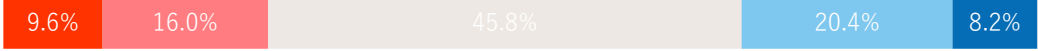
## ▼授業内容③（検定試験対策系)の授業について)



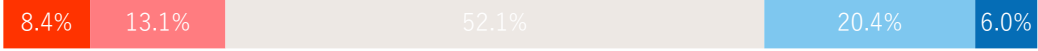
## ▼テストの難易度（テストのレベルが高(低)い)



## ▼英語講師



## ▼テキスト（教材)



0 20 40 60 80 100

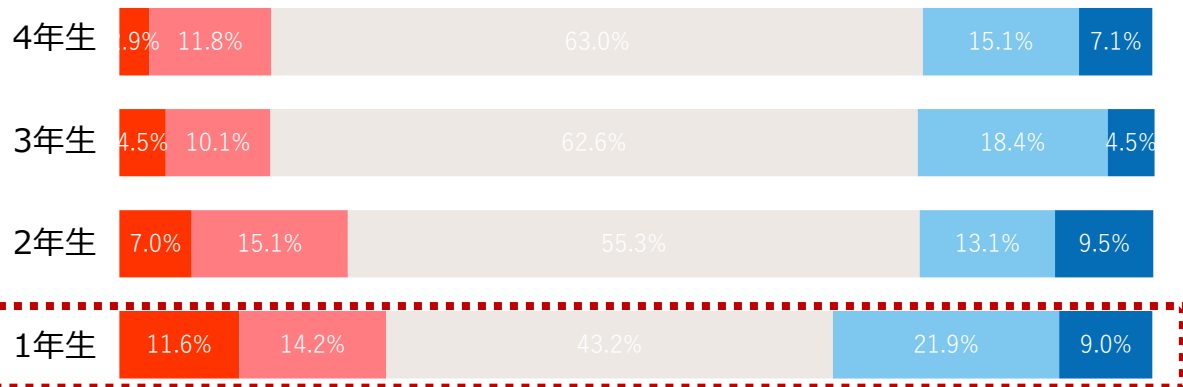


➡ **「英語講師」への満足度が最も高い**  
 アウトプットについての授業に不満を感じている傾向にあり、成長していない技能と一致している。

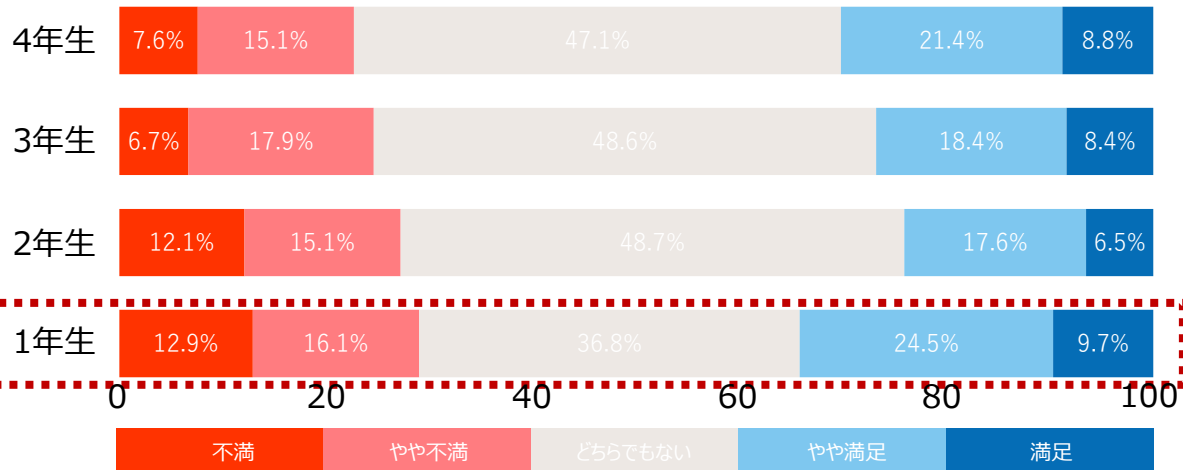
大学の英語必修授業で満足（不満）に感じているまたは感じたことを選択してください。【学年別】

※学年ごとにばらつきがあったものを抜粋

▼クラス分け（クラスのレベルが高(低)い）



▼英語講師

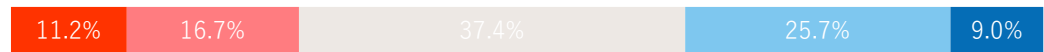


➡ 「クラス分け」「英語講師」において満足度が二極化  
1年生の比較で顕著にあらわれた。成長実感の低さを見ても1年生へより丁寧な対応が求められるのではないか。

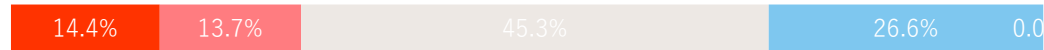


こんな授業は履修したい（したくない）と思う英語必修授業を選択してください。【項目別】

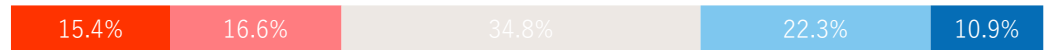
▼基礎的なインプット(リスニング/リーディング)中心の授業



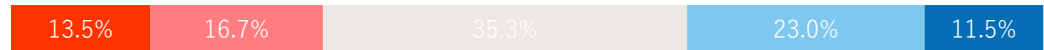
▼基礎的なアウトプット(ライティング/スピーキング)中心の授業



▼応用的なインプット(リスニング/リーディング)中心の授業



▼応用的なアウトプット(ライティング/スピーキング)中心の授業



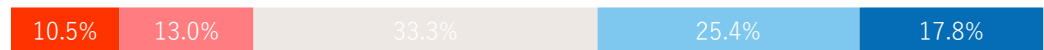
▼コミュニケーション中心の授業



▼ビジネス英語・異文化理解関連の授業



▼検定試験対策(TOEICなど)の授業



▼留学対策の授業



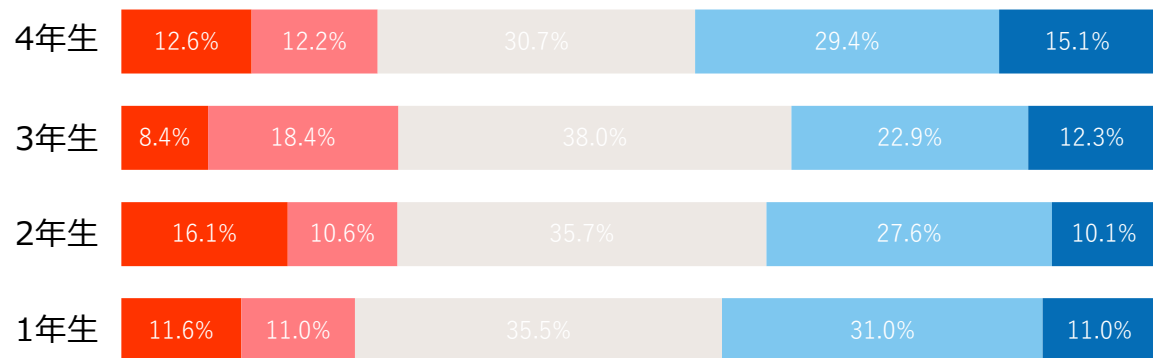
履修したくない    やや履修したくない    どちらでもない    やや履修したい    履修したい

➡ **「検定試験対策」「ビジネス英語・異文化理解関連」が履修したい授業**  
 就職や将来見据えたスキルを伸ばしたいと考えているのか、「コミュニケーション中心の授業」よりも高い結果に。

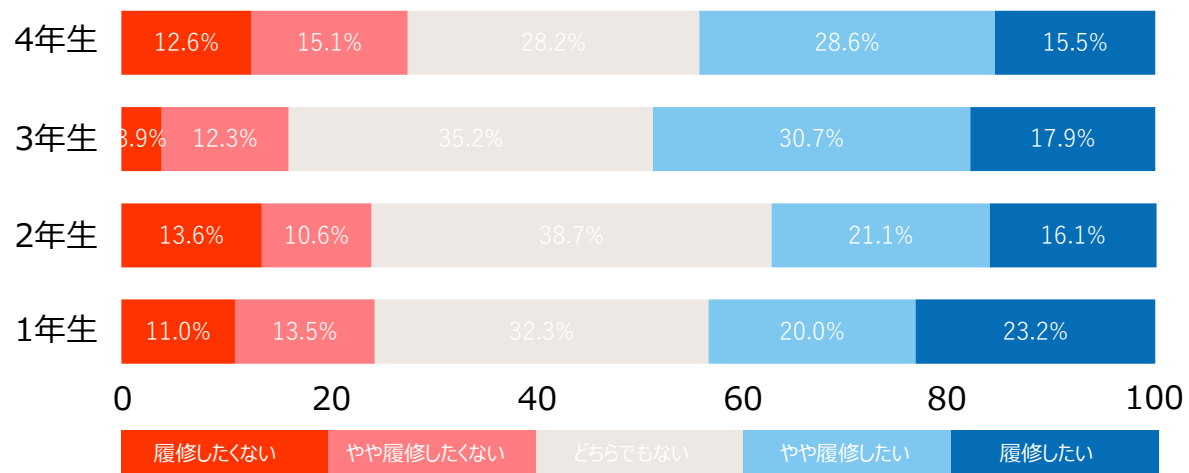
こんな授業は履修したい（したくない）と思う英語必修授業を選択してください。【学年別】

※学年ごとにばらつきがあったものを抜粋

▼ビジネス英語・異文化理解関連の授業



▼検定試験対策(TOEICなど)の授業



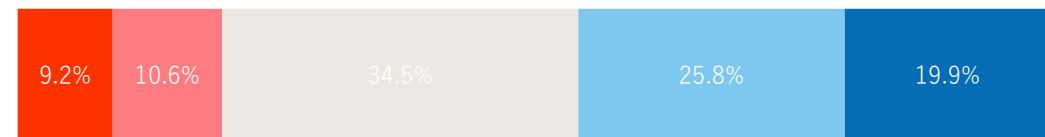
▶ **学年別で最も履修した授業は、3年生で「検定試験対策」、他の学年で「ビジネス英語・異文化理解」に変化**  
 低学年で実践的な英語力のニーズがあり、3年生で就活を意識した履修選択。4年生でまた実践的な英語力成長が求められている。など学年に応じたニーズの変化に注意。

自分の英語力を客観的に把握したいですか。

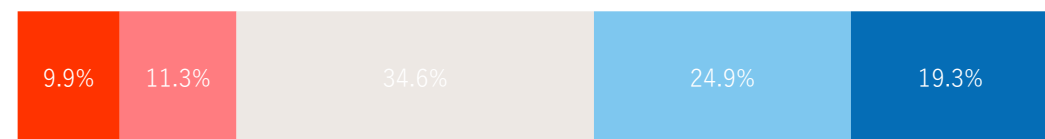
▼リスニング



▼リーディング



▼ライティング

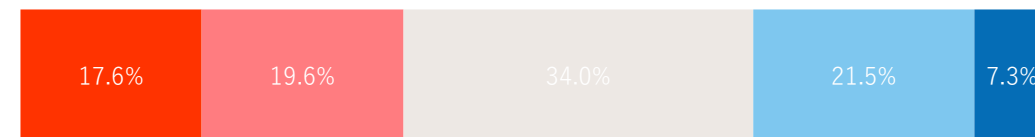


▼スピーキング

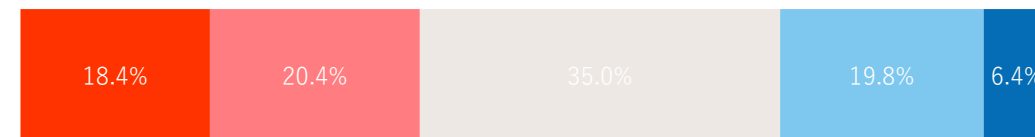


自分の英語力を客観的に把握できていますか。

▼リスニング



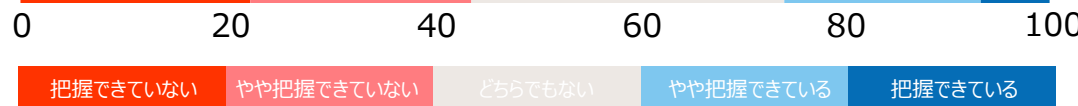
▼リーディング



▼ライティング



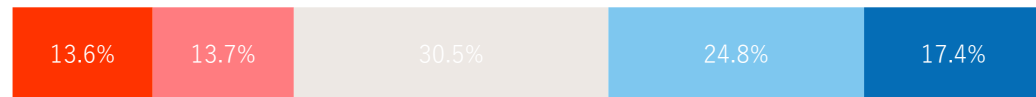
▼スピーキング



➡ **伸ばしたい技能と把握したい技能が一致も、約半数の学生は自分の英語力を把握できていない**  
特にライティング・スピーキングのアウトプットにおいて、客観的に把握できる機会が少ないと予想される。

どんな英語のアセスメントテストを受けてみたいですか。

▼オンラインで受けられる



▼試験会場で受けられる



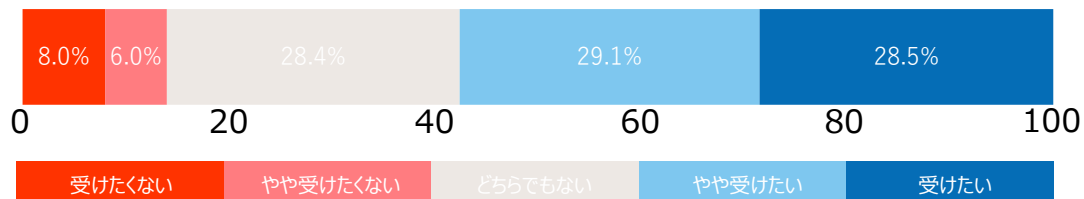
▼短時間で受けられる



▼結果がすぐに返却される



▼結果レポートのフィードバックが充実している



➡ **「手軽さ」「フィードバックの充実」をテストを受ける上で重視**  
 オンライン・短時間・即時返却など手軽に受けられること、  
 次の学習に繋げるためのフィードバックの充実を求めていると  
 予想される。

本定量調査と合わせて定性調査として、  
現役大学生（2年生2名と4年生1名）にインタビューを実施した。※インタビュー当時  
以下本調査と関連する内容を一部抜粋する。

### 成長実感と授業満足度について

**アイさん**：プレゼンの機会は、大学よりも高校のときのほうが多かったと思います。（中略）「大学はプレゼンする授業が多い」って聞いていたので、イメージと違って少し期待外れに感じました。

（面白かった授業は、プレゼンテーションで）自分が専攻していることと関連づけることができたのは勉強になりました。

**サキさん**：（英語力の成長実感がないのは）そうかもしれません。（教科書の和訳などが多く）大学の英語の授業が面白いと思うことが少なかったし、（中略）モチベーションが下がったときもありました。

**トモさん**：一方的なプレゼンではなく、双方向のコミュニケーションを重視した授業。こうした授業は、クラス分けが大事だと思います。（中略）だからリーディングやリスニングだけでなく、スピーキングも含めた英語力で判断して、クラス分けしたら良いと思います。

### 英語力の把握とテストについて

**サキさん**：把握したいと思っはいますが、自分の英語のできな加減を直視したくないというのが本音です（笑）。（中略）リーディング、ライティングは学校のテストでもある程度力を測れますが、スピーキングとリスニングに関しては、客観的に力を測る機会が少ないので。

**トモさん**：僕は手軽に受検できるテスト（中略）「オンラインで受検できる」「短時間で受けられる」（中略）受検料がリーズナブルなほうがうれしいですね。そのほうが頻繁に受検できるので、自分の英語力を定期的に把握する機会があれば、成長を実感でき、次の学習につなげることができると思います。

**サキさん**：私は観点別のアドバイスなど、フィードバックが充実しているテストが良いなと思います。「できているところ」「できていないところ」の両方を指摘してもらって「今後どうすればいいのか」をアドバイスしてもらえるようなテスト。（中略）次の受検へのモチベーションにつながります。



#### ▼参加者プロフィール

**アイさん（左）**  
大学2年生。大学でバイオサイエンスを専攻。英語が好きで通訳者・翻訳者を志望する人向けの授業も履修。

**サキさん（中央）**  
大学2年生。生活科学系の学部所属。スポーツ全般が好きで趣味は水泳。将来は子どもたちの教育支援の仕事に就職希望。

**トモさん（右）**  
大学4年生。経済学部所属。就職活動時TOEIC800点のスコアを取得。学習塾の講師やアミューズメントパークでアルバイトを経験。

※本人情報非公開のため、名前と顔出しはおこなっておりません。

インタビュー全文は[コチラ](#)に掲載

本調査は「大学生は達成したい目標を掲げ、英語学習に取り組んでいるのか。」と問いを立てて調査を行った。

結果半数以上の学生が在学中に英語力が上がったと感じておらず、

また**自分の英語力を把握したいが、4人に1人しか実際に把握できている学生がいない**結果となった。

本調査とは別に学生への個別インタビュー（前項）で自分の英語力を「**知りたいけど直視したくない**」と回答。

一方で「**フィードバックが充実**」しており「**手軽**」に受けることができるテストであれば受けてみたいと前向きな回答が得られた。

つまり「**自分のためになるテスト**」を求めていると考える。

また大学の授業満足や求める内容においては**学年で大きな違い**が生じた。

特に学びに意欲を持っている**1年生では、いかに自分にあった講師・レベルで受講できる**かがポイントとなる。

前述した個別インタビューでは現役大学生を対象に、

今回の調査結果を踏まえ「**大学英語教育の本音**」についてヒアリングを実施。

[こちら](#)からご覧いただけます。

## まなぶとはたらくをつなぐ 研究所

✓ 所在地

- 〒163-0432 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング32階  
株式会社ベネッセ i-キャリア内

✓ TEL

- 03-5320-1299（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く9:30-17:30）

✓ Mail

- [cag000144@benesse-i-career.co.jp](mailto:cag000144@benesse-i-career.co.jp)

✓ ホームページ

- <https://www.benesse-i-career.co.jp/lab0.html>（公開レポートなどもこちら）